

オガサワラオオコウモリ

Pteropus pselaphon

コウモリ目 (翼手目)
オオコウモリ科

小笠原諸島 EN

環境省 EN

【形態・生態】

中型のオオコウモリで、前腕長 130 ~ 150mm、頭胴長 200 ~ 240mm、尾はない。体重 380 ~ 440g。全身黒褐色で、銀白の毛が混じる。一般に夜行性で、昼は樹林内のねぐらで休息している。主に果実、花蜜、木の葉を採食する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

樹林に昼間のねぐらがある。個体数は非常に少なく、主要な個体群は父島の約 150 頭、南硫黄島の数百頭である。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

母島では 1968 年の日本復帰時に数百頭が確認されているが、1970 年代後半以降、数頭程度の目撃となり、現在も個体数の回復がみられない。減少の原因は不明である。父島では、ねぐらのある樹林の開発、観察ツアーによるねぐらのかく乱、果樹食害防止ネットへの絡まり事故が脅威となっている。このほか父島に限らずネコによる捕食、クマネズミなどの餌資源の競合も脅威である。

【関連文献】

阿部学, 2002; 鈴木創・稲葉慎, 2010.

(執筆者: 石井信夫)



オガサワラアブラコウモリ

Pipistrellus sturdeeii

コウモリ目 (翼手目)
ヒナコウモリ科

小笠原諸島 EX

環境省 EX

【形態・生態】

アブラコウモリより小型で、前腕長 30mm、頭胴長 37mm、尾長 31mm。生態についての情報はない。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

どのような環境に生息していたか不明である。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

母島で 1915 年に採集されたというタイプ標本 1 点 (大英自然史博物館所蔵) が存在するのみで、その後、採集記録がない。絶滅したとされているが、個体群として定着していたかどうか、絶滅の原因も不明である。

【関連文献】

前田喜四雄, 2002; Kawai, K., 2009.



©Natural History Museum, London

(執筆者: 石井信夫)

【種名・学名などの準拠文献】

和名、学名、配列は、次の文献に準拠した。

阿部永 (監修), 2008. 日本の哺乳類 改訂 2 版. 東海大学出版会. 206 pp.

【関連文献】

阿部学, 2002. オガサワラオオコウモリ. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—1 哺乳類, pp. 34-35. 自然環境研究センター.

Kawai, K., 2009. *Pipistrellus sturdeeii*. In: Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa & T. Saitoh (eds.) The Wild Mammals of Japan, p. 83. Shoukadoh.

前田喜四雄, 2002. オガサワラアブラコウモリ. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—1 哺乳類, p. 23. 自然環境研究センター.

鈴木創・稲葉慎, 2010. 空飛ぶ森の守り神と島々の未来—オガサワラオオコウモリの生態と保全策—. 遺伝, 64(4): 61-67.

